

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025 年 3 月 27 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 150-0002

所在地 東京都渋谷区渋谷3-8-12渋谷第一生命ビルディング7階

評価機関名 株式会社プレパレーション

認証評価機関番号

機構 20 — 253

電話番号 03-6427-7451

代表者氏名 岡 知己

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	井口淳	経営	H2301023
	②	古畑朋子	福祉	H2301054
	③	帆苅綾乃	福祉	H2401031
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			指定番号を入力してください
評価対象事業所名称	芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ学童クラブ			
事業所連絡先	〒	108-0023		
	所在地	東京都港区芝浦4-20-1		
	TEL	03-5443-7338		
事業所代表者氏名	中里敦			
契約日	2024 年 7 月 22 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 11 月 5 日			
利用者調査結果報告日	2024 年 11 月 27 日			
自己評価の調査票配付日	2024 年 11 月 5 日			
自己評価結果報告日	2024 年 11 月 27 日			
訪問調査日	2024 年 12 月 20 日			
評価合議日	2025 年 3 月 27 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	施設を現在利用している全世帯の利用者及び保護者を対象とした利用者調査をおこないました。施設から利用者調査案内を配布し、紙面にて回答して回収BOX及び返信用封筒にて本機関へ郵送してもらう形式にしました。職員へのアンケートも紙面にておこない、鍵付きBOXへ提出してもらったのち、本評価機関に郵送にて回収しました。訪問調査当日は、施設内の見学をしたあと、経営層に質問しながら、書類の閲覧をして状況把握に努めました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） (1)一人ひとりがありのままでいられる社会 (2)誰も取り残されない共に生きる平和な社会 (3)助けてと言える、助けられる社会 (4)互いを認め合い「ポジティブネット」のある豊かな社会を創る (5)したい何かがみつき、誰かとつながる。私がよく、かけがいのない場所。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	(1)職員に求めている人材像や役割 ・利用者も職員も与えられた命を大切にできる ・行動規範、スタンダードに基づいて働き、利用者一人ひとりと向き合いながら居場所となる ・職員自らも楽しみここが居場所となる働き方を実現する
	(2)職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・スタンダード「わたしたちの約束」－居場所事業の目指すこと－に記載されていること

調査対象

対象施設の登録児童数を調査対象とし、アンケートにて調査をおこなった。47世帯より回答を得た。回答は対象児童もしくは保護者が利用者の様子を推察し、回答を依頼した。

調査方法

アンケート方式
紙面のアンケートを施設より配布、施設内回収BOX及び返信用封筒にて本機関へ返送してもらう方法で実施。

利用者総数

134

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
134	0	134
47	0	47
35.1	0.0	35.1

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

利用者調査全体のコメント

総合評価は、「大変満足」が66.0%、「満足」は27.7%、「どちらともいえない」が4.2%、「無回答」が2.1%という結果となり、「大変満足・満足」を合わせて93.7%という大変高い評価を得ています。自由記述では「学童のスタッフは優しいです。」「楽しくて大好きなので良い所に決まっています。」「障がいがありますが、スタッフの方々が上手に健常の子達と交流出来るよう計らって下さっています。」「体育室で遊べるのがとても良いです。」「というコメントのほか、ツアーでキャンプをした、ごろごろシアターをもっとしたい、ブロックの種類を増やしてほしい、段ボールやラップの芯を自由に使える数を増やして欲しい、という意見が寄せられていました。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	37	7	0	3
この項目では「はい」の回答が78.8%、「どちらともいえない」は14.9%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は6.3%という結果となりました。自由記述では「色々な活動があってやってみたいことが沢山あります。」「おやつが美味しいです。」「たまりに楽しいです。」「というコメントのほか、体育館でボールを使って遊びたい、玩具に飽きてしまった、という意見が寄せられていました。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	29	13	0	5
この項目では「はい」の回答が61.7%、「どちらともいえない」は27.7%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は10.6%という結果となりました。自由記述では「とても良く聞いてくれます。」「話し相手になってくれます。」「というコメントがありました。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	38	6	1	2
この項目では「はい」の回答が80.9%、「どちらともいえない」は12.8%、「いいえ」が2.1%、「無回答・非該当」は4.2%という結果となり、高い評価を得ています。自由記述では「いつも楽しみです。」「美味しいのがあるので楽しみです。」「美味しいです。」「というコメントのほか、違う物も出してほしい、という意見が寄せられていました。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	21	9	1	16
この項目では「はい」の回答が44.7%、「どちらともいえない」は19.2%、「いいえ」が2.1%、「無回答・非該当」は34.0%という結果となりました。自由記述では「実際にそうなったことがないので分かりません。」というコメントのほか、自分の話が通らない時もある、などの意見が寄せられていました。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	37	5	1	4
この項目では「はい」の回答が78.8%、「どちらともいえない」は10.6%、「いいえ」が2.1%、「無回答・非該当」は8.5%という結果となりました。自由記述では「理由の詳細の説明まで受けた訳ではないが、理由が分かるようなルールばかりだと思います。」というコメントがありました。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	30	10	2	5
この項目では「はい」の回答が63.8%、「どちらともいえない」は21.3%、「いいえ」が4.3%、「無回答・非該当」は10.6%という結果となりました。自由記述では「綺麗な部屋もあります。」というコメントのほか、アートルームは散らかっていることがある、という意見が寄せられていました。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	34	6	0	7
この項目では「はい」の回答が72.3%、「どちらともいえない」は12.8%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は14.9%という結果となりました。この項目のコメントはありませんでした。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	38	3	0	6
この項目では「はい」の回答が80.9%、「どちらともいえない」は6.4%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は12.7%という結果となり、高い評価を得ています。自由記述では「安心しています。」「具合が悪くなったことはありません。」というコメントがありました。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	32	8	0	7
この項目では「はい」の回答が68.1%、「どちらともいえない」は17.0%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は14.9%という結果となりました。自由記述では「助けてくれます。」「実際にそうなったことがないので分かりません。」というコメントのほか、職員によって対応に差がある、という意見が寄せられていました。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	32	2	1	12
この項目では「はい」の回答が68.1%、「どちらともいえない」は4.3%、「いいえ」が2.1%、「無回答・非該当」は25.6%という結果となりました。自由記述では「実際にそうなったことがないので分かりません。」というコメントがありました。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	26	6	1	14
この項目では「はい」の回答が55.3%、「どちらともいえない」は12.8%、「いいえ」が2.1%、「無回答・非該当」は29.8%という結果となりました。自由記述では「内緒や秘密は無いので分からない。」「そうだったことがないので分かりません。」というコメントがありました。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	35	6	1	5
この項目では「はい」の回答が74.5%、「どちらともいえない」は12.8%、「いいえ」が2.1%、「無回答・非該当」は10.6%という結果となりました。この項目のコメントはありませんでした。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	11	6	7	23
この項目では「はい」の回答が23.4%、「どちらともいえない」は12.8%、「いいえ」が14.9%、「無回答・非該当」は48.9%という結果となりました。この項目のコメントはありませんでした。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	理念などを取りまとめた冊子の作成をおこない、職員の理解を深めています 目指している理念やビジョン、基本方針などについて、職員の理解が深まるように、法人全体の理念は全体職員会議などで伝え、日常的に職員が確認しやすい場所への掲示をおこなっています。さらに、アフタースクール事業に特化した理念などを取りまとめた「わたしたちの約束 居場所事業の目指すこと」の冊子を作成し、研修の機会を設けて内容理解を深めて、日頃の仕事に結び付けています。	
	目指している理念などを広く周知するための説明や掲示をおこなっています 目指している理念やビジョン、基本方針について利用者本人や家族の理解が深まるように、利用者懇談会や学童クラブの保護者会などで具体例をあげながら伝えていきます。施設運営の理解が得られるようにするため、法人として大切にしていることや、法人の成り立ちや経緯などについての詳細をホームページへ掲載し、事業方針および事業計画の配布および管内掲示などをおこなっています。	
	職位や担当分野による会議や窓口設置をおこない、検討や情報共有をしています 月に1回の館長、副館長、事務長、各主任が出席する主任会を実施し、法人の方針、決定事項などの共有をおこなっています。また、各部からの検討課題の共有および方向性の決定もおこなっています。高齢、一般、学童のそれぞれの分野に主任を配置し、報告、連絡、相談の窓口としています。また、各部において定期的にミーティングを実施し、課題解決や情報の共有をおこなっています。	

2			カテゴリー2	
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行				
サブカテゴリー1(2-1)				
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			評点(○○○○○○)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している			○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している			○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している			○非該当
サブカテゴリー2(2-2)				
実践的な計画策定に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している			評点(○○○)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している			○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している			○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている			○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点(○○)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している			○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる			○非該当
カテゴリー2の講評				
年代別に利用者の意見を聞くイベントを企画するして利用者のニーズを把握しています 利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握するために、利用者懇談会の開催、アンケートの実施、意見箱の設置をしています。対象者を絞って意見を聞く機会を設けるために、小学生対象の「こども会議」や、中高生対象の「中高生会議」を企画し、それぞれの年代の要望を的確に把握する工夫をしています。また、より気軽に意見や希望を言える環境を提供するために「あいぶら大感謝祭」というイベントを企画し、独自アンケートを実施しています。 職員の運営に対する意向や、地域の福祉ニーズの把握に努めています 運営に対する職員の意向を把握・検討するために、年に3回の職員面談や、各部会における協議をおこなっているほか、必要に応じてメールや面談などによって職員の意向を的確に把握しています。さらに、地域の福祉の現状やニーズを把握するために、近隣の町会や商店会が参加している協議会へ毎月出席し、児童館長会やいきいきブラザ連絡会にも毎月参加しています、運営懇談会を年に2回実施し、地域の関係者との情報交換もおこなっています。 業界全体の動向を広く専門的に把握するためにさまざまな取り組みをおこなっています 福祉事業全体の動向について情報を収集し、課題やニーズを把握するため、港区からの情報や各メディアからの情報収集、児童館長会におけるの情報共有や研修の実施、関係する業界の書籍の閲覧をおこなっています。事業部全体で専門家を招いた専門委員会の開催や、全国のアフタースクール事業部会での情報共有や研修を実施し、より専門的で多角的な視点からの情報収集に努めています。また、近隣小学校の運営会議や特別支援学校の学校公開、自立発達支援センター見学研修への参加など近隣の関連施設との連携もおこなっています。				

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	☐ 非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	☐ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	☐ 非該当

サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	☐ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリ-3の講評		
職員が守るべき法や規範についての理解が深まるように努めています 全職員に対して、社会人および福祉サービスに従事する者として守るべき法や規範、個人の尊厳を含む倫理などを周知し、理解が深まるように、毎年行動規範についての内容を確認し、全体職員会議において読み合わせをしています。また、スタンダードである「わたしたちの約束-居場所事業の目指すこと」の冊子を作成し研修をおこなうことで、より理解が深まるように努めています。法人が策定している個人情報保護についての基本方針や、区の情報安全対策基本方針なども活用しています。 利用者の気持ちを傷つけない適切な関わり方を徹底しています 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動などがないよう、組織的に防止対策を図るために、日誌の記入による振り返りや、管理職の立場の職員が確認をおこなっています。さらに、部門ごとに置かれた主任を中心に日々の振り返りをおこないながら、適切な関わりについての意見交換をおこない、職員の意識を高く保つよう努めています。万が一、虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、子ども家庭支援センターや児童相談所などの関係機関との連携をして対応する体制を整えています。 さまざまなイベントへの参加や招待を積極的におこない、地域貢献に取り組んでいます 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えるために、地域住民の交流として、町会のお祭りや自治会のゴミ拾いをおこなうクリーンコミュニティへの参加をしています。近隣学校の校長や町会長などとおこなう運営懇談会を開催し、地域の乳幼児から高齢者までの関係者に出席してもらい意見交換をおこなっています。近隣小学校の運営委員会への出席や年に7回程度実施される各町会のお祭りにこども向けのゲームなどを出展しています。また、施設のお祭りにも町会、自治会、小学校PTAなどの方たちに参加を依頼しています。		

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準项目实施状況 4/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(○○○○●)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準项目实施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(○○○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
さまざまなリスクに対して、緊急時の組織編制や各種訓練などをおこない備えています 事故や感染症、侵入、災害、経営環境の変化などのさまざまなリスクに対策を講じるため、自衛消防隊の編成および掲示による周知や、緊急時の対応マニュアルを作成して掲示をしています。そのほか、定期的な普通救命講習や看護師による感染対策講習の実施をし、警察署による職員および児童を対象とした防犯対策研修や、毎月の避難訓練をおこない、万が一の事態に備えています。事業継続計画についても区の担当部署と協議しています。 ヒヤリハットや他施設事例などを活用して、予防対策に取り組んでいます ヒヤリハットについて各日誌に記入し、類似の事象が起こらないように、屋礼などで周知しています。避難訓練については、火事、地震や津波などのさまざまなケースを想定し、想定外の事象を可能な限り少なくなるように工夫しています。また、同じ建物内にあることも園と合同避難訓練を実施しています。他園の事故や報道などから組織的な対応の検討をおこなうために、職員会議や屋礼などで館長より事例の共有などをおこなっています。また、警察からの不審者情報なども共有しています。 職員が情報管理についての知識を持ち、情報漏洩防止対策を実施しています 適切な情報管理のために、正職員、非常勤職員、アルバイトなどすべての職員に対して行動規範を提示し、内容を十分に確認したうえで署名をしています。法人および港区の個人情報取り扱いの基本方針なども活用して、職員の理解が深まるように努めています。重要な情報は鍵付きの書庫などに保管し、管理簿は記録メディアを使用することで情報漏洩防止対策を講じています。電子データについては、情報の重要性や機密性を踏まえ、役職によってアクセス権限を設定し、カメラの記録メディアを使用する際にはダブルチェックを実施しています。		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-5の講評		
法人内に専門学校がある強みを活かして積極的な採用をおこなっています 求める人材の確保するための取り組みとして、法人のホームページに採用専門ページの設置やリファラル採用の導入および職員への周知などをおこなっています。また、本部採用と事業部採用で幅広く周知し、法人内に専門学校がある強みを活かして採用をおこなっています。実習生の積極的な受け入れをおこない、採用へ結び付けることで、採用前後のギャップや職場とのミスマッチを防ぐ工夫をおこなっています。 職員が安心して継続的に働くことができる職場環境づくりに取り組んでいます 職員の就業状況を把握し、安心して働き続けられる職場とするために、年3回の職員面接や、年1回のストレスチェックの実施、ハラスメント窓口の設置、勤怠管理システムの導入による勤怠管理、週の時間労働を超えないシフトづくりなどに取り組んでいます。可能な限り希望に沿った休暇の取得や研修参加が可能となるようなシフトの作成にも配慮しています。また、懇親会を年に数回実施し、職員間の良好な関係構築に取り組んでいます。 研修内容の共有や他部署の職員との交流により組織力の向上に努めています 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、研修報告書に取りまとめ、全体職員会議や研修報告書データのサーバー内で共有し、組織全体のスキルアップをおこなっています。職員の日頃の気づきや工夫について、各部会でそれぞれの意見を聞く場を設けています。チューター制度を取り入れ、それぞれで話す時間を設けることや、研修において他部署の職員と話すことで、広い視野を持ってサービスの質の向上および業務改善に活かす組織的な仕組みを設けています。		

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリ1(7-1)		
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている		
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)		
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) これまでは各年代の利用者のニーズを掘り起こし、把握することを目的として、年2回の利用者懇談会、日常のロビーワーク、意見箱などで声を集めていました。 ここは利用者の対象が広く、乳幼児保護者、小学生とその保護者、中高生、高齢者が一斉に集うことが難しいため、利用者懇談会は参加者の偏りや施設への要望や課題が異なるなど一緒に協議することが困難でした。また、利用者懇談会は敷居が高く感じられ気軽に参加できない利用者もいるため、3月に実施する「あいづら感謝祭」のイベントの中でお茶を飲みながら利用者とスタッフが話しをしながら館独自のアンケートの実施をしました。結果、小学生から高齢者まで162名の回答が寄せられました。その他、従来の「小学生こども会議」、「中高生会議」、「学童クラブ保護者会での意見交換」も実施するなど、利用者のニーズ把握が進みました。		
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった	
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 利用者のニーズを把握する際に、年代ごとに分けて把握することで、利用者の要望をより的確に把握し、質の高いサービス提供を目指すための取り組みです。今までは、年2回の利用者懇談会の実施、日常的に話をして意見を聞くロビーワーク、意見箱などにより利用者の要望などを把握するように努めていました。利用者懇談会の実施時期による参加者の偏りが出てしまい、課題と捉えています。そこで、対象者を絞って意見を聞く機会を設けるために、小学生対象の「こども会議」や、中高生対象の「中高生会議」を企画し、それぞれの年代の要望を的確に把握するように工夫をしています。さらに、より気軽に意見や希望を言える環境を提供するために「あいづら大感謝祭」というイベントを企画し、独自アンケートの実施や、お茶を飲みながら職員と会話ができる場の提供をしています。これらの取り組みは利用者からも好評で、多くの意見を収集することに成功しています。今後も利用者のニーズを詳細かつ的確に把握するための工夫を続け、より質の高いサービスの提供を目指していくことが期待されます。		

評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 職員の働き方改革をおこない、効率的な運営を目指すとともに、職員の労働環境の改善に努めました。また、利用者だけでなく、職員の声を聞く場を設け、職員一人ひとりにとってやりがいのある職場となることで、離職率の軽減につながり、利用者に優しい、利用者に寄り添う時間を増やすことも目標としました。障がい児支援加配を含む職員体制の増員や、法人として会計処理に新しいシステムを導入、労務管理にも新しいシステムを導入しました。さらに、職員研修のさらなる充実や、年3回の職員個々との三者面談をおこない、職場内での人間関係改善や、個々の職員の課題理解および課題解決に取り組みました。健康診断の他にストレスチェックも全職員に実施しました。これらの取り組みの結果、全体的に残業時間が減り、休日出勤も削減され、有休消化率が増えました。管理職の事務仕事の軽減も達成し、利用者に向き合う時間が増えました。面接を通して個々の課題や目標が明確化されるとともに、男性職員の育児休暇取得など、個人が抱える事情に寄り添った働き方ができるようになり、職場が嫌で辞めるといような離職率の軽減につながったと考えています。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評 労働環境を改善することで、職員にとって働きやすく魅力的な職場を構築するための取り組みです。さらに職員の事務作業などの業務を効率的におこなうことで、職員が直接的に利用者とかかわる時間を多くすることも目的としています。具体的な取り組みとしては、職員の増員や、精算処理および勤怠管理に新しいシステムを導入し、事務作業の削減に成功しています。一般的には新しいシステム導入などの際に、全職員が使用方法に慣れ、効率的に使用するには時間がかかるため、今後はより効率化が進むことが期待されます。その他の取り組みとして、研修の充実や、管理職との丁寧な面談をおこない、職員の希望を把握して、個々の希望にあった働き方ができるように配慮しています。今回の取り組みによって、残業時間の削減や、有休取得率の向上など、確実な結果を得ることに成功し、職員が利用者と直接的にかかわる時間を増やすことも達成しています。今後も職員の労働環境を改善させ、その結果、職員と利用者にメリットがあるような取り組みを継続的に実施していくことが期待されます。	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している 評点(〇〇〇〇)			
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	☐ 非該当
サブカテゴリー1の講評			
子どもや保護者に向けて、さまざまな媒体を活用した情報提供をおこなっています 学童クラブの情報は、港区や法人のホームページ、施設紹介のリーフレット、館だよりの「あいらんばん」などで情報を発信しています。また、近隣の学校へは「あいらんばん」の配布をおこない、施設の活動情報を子どもたちに提供しています。子どもが来館した際は、館内の掲示物の内容が理解できるように、ふりがなを振るなど情報を分かりやすく伝える工夫をしています。施設紹介のリーフレットは、フロントに設置し、来館した際に学童クラブの情報が得られるようにしています。港区の広報へは施設のおたよりを配布し、情報提供に取り組んでいます。 子どもや保護者のニーズに合わせ、活動内容が伝わるように情報を提供しています 「あいらんばん」のおたよりは、月間キッズプログラムを記載し活動への興味、関心が持てる構成にしています。また、ホームページにアクセスできる二次元バーコードを記載し、直ぐに情報が得られる工夫をしています。リーフレットは、施設の概要や活動の様子、子どもが利用できる事業内容を掲載しています。外国籍の方には、翻訳機の活用や外国語対応職員が説明をおこない、英語、中国語、韓国語の学童クラブ入会資料を必要に応じて渡しています。学童クラブでは、配慮が必要な子どもに関して港区からの情報提供があった際に個別対応をしています。 見学では各部屋を案内し、さまざまなプログラム活動を展開していることを伝えています 学童クラブの見学は、随時開催し、電話や来館時に受け付け、全職員が対応する体制を整えています。実際の見学では、学童クラブの部屋や他に利用できるアートルーム、多目的ルーム、体育室などの各部屋を案内しています。見学者には、児童館と併設でさまざまなプログラム活動を展開し、全てに参加が可能であることを伝え、高齢者との交流もできる施設であることを伝えています。また、見学者の要望がある際は、学童クラブで遊んでいる子どもの様子を見る機会を設け、入会後の生活がイメージしやすくなるよう案内しています。			

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当	
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当	
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当	
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当	
サブカテゴリー2の講評			
入会説明会では「学童クラブしおり」に沿って説明し、保護者と同意を交わしています 入会時に入会説明会をおこない、「学童クラブしおり」に沿って一日の流れや書類、連絡方法などの説明をしています。アレルギー対応が必要な子どもに関しては、保護者と面談で対応内容や配慮点を確認し、「アレルギー等健康調査票」に記録して、確認のサインをお願いしています。こどもの写真については、「画像使用・動画及び配信の同意書」の提出を依頼し、同意が得られない場合は、一覧表にして職員間で共有しています。そのほか、おやつの利用負担金に関しては、「学童クラブしおり」に記載し、理解を得ています。 学童クラブの入会直後は、こどもが新しい生活に慣れるための配慮をおこなっています 入会関係の書類や児童票、生活状況調査書などで、こどもに関する情報を記録し、職員間で把握しています。また、入会前の保護者説明会では、こどもに関する情報を得るため必要に応じて、情報収集をおこなっています。新1年生には、生活の流れや部屋の説明をおこない、名刺をつけることを伝え、施設の全職員が、こどもに声をかけるなど、安心して過ごせる関わりをしています。入学後の一か月は、学校に迎えに行き、安心して学童クラブに通える配慮をしています。退会後は、一般利用で自由に来館が可能なことを伝え、継続的な関わりを続けています。 配慮が必要な子どもに対しては、支援体制を整え、安心して過ごせる配慮をしています アレルギー対応や発達面で特に配慮が必要な子どもに対しては、アレルギー等健康調査票、生活状況調査書をもとに情報を把握し、適切な支援に取り組んでいます。発達面で特に配慮が必要な子どもに関しては、保護者との個人面談で得られた情報をもとに、こどもの特性にあった設備面の改善や、必要に応じてこどもの支援に携わる職員を配置し、こどもが無理なく安心して学童クラブの生活に慣れる配慮をしています。また、全保護者と個人面談の時間を設け、こどもの生活状況や保護者の要望を把握し、一人ひとりに合った支援に取り組んでいます。			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 10/10
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で送り送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリ-3の講評		
育成支援について目標を立て、こども一人ひとりにあった支援に取り組んでいます 学童クラブでは、事業計画書のなかに、支援目標を立て、「児童一人ひとりの個性と向き合い、集団生活の中で自ら考えて行動できるように支援する」を目標にし、育成支援に取り組んでいます。また、支援内容はこどもの成長や生活状況に合わせ適切に対応できるよう、随時見直しをおこなっています。配慮が必要なこどもについては、巡回相談の機会を設け、専門家のアドバイスを参考にし、支援に取り組んでいます。保護者には、保護者会や個人面談のなかで、学童クラブの育成支援について説明し、こどもの成長を共に支えていけるよう理解を図っています。		
職員間でこどもに関する情報や支援方法について話し合いをおこない、記録しています 職員は、こどもの情報や援助内容をミーティング内で話し合っています。毎日のこどもの様子は実施記録の日記に記入し、学童クラブに関するミーティングの内容はミーティングノートに記録をおこない、いつでも振り返りができるようにしています。また、個人面談で得た情報は、個人面談記録に記入し、必要な情報を職員間で周知、共有しています。配慮が必要なこどもに関しては、生活状況書に記録し、巡回相談での専門家の助言や支援方法は、巡回指導記録表に記録をおこない、職員が連携して適切な支援に取り組んでいます。		
こどもに関する情報は、日記やミーティングを通し、職員間での共有に取り組んでいます 学童クラブでは、職員がこどもの状況を適切に把握し、支援に活かせるように日記の記録や日々のミーティングでの共有に取り組んでいます。こどもや保護者に関する情報は、午前と夕方の2回のミーティングで送り送りや引継ぎをおこない、職員同士で共有しています。また、ミーティングでは、支援の方法や関わり方についての対応を話し合い、職員間で共通の理解を深めています。さらに、こども一人ひとりに対する理解を深め、適切な支援につなげるため、臨床心理士による巡回相談の場を設けています。		

サブカテゴリ-5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	○非該当	
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
学童クラブでは、こどもに関するプライバシー保護に努め、羞恥心にも配慮しています 入会時に、こどもの個人情報に関わる写真の取扱いについて説明をおこない、保護者と同意書を交わしています。また、入会后、新たに外部との情報のやりとりが発生した際は、保護者の意向を確認しています。職員は、こどものプライバシーに配慮して、こどもたちの前で個人情報に関わる発言をしないように心がけています。そのほか、トイレ対応や着替えの際は、同性介助を基本として対応をおこない、多目的トイレに着替えスペースを設け、まわりに気がつかれないようにこどもの羞恥心に配慮した対応をしています。 こども一人ひとりの思いを受け止め、人権に配慮し、尊重する関わりを大切にしています 職員は、日常の援助でこども一人ひとりの思いを受け止め、尊重する関わりを大切にしています。また、理念に沿った関わりを心がけ、こどもと向き合っています。自分の気持ちを言葉で表すのが苦手なこどもへは、「だれでもボックス」の設置や、「こども会議」で話しやすい職員に思いを伝えることを促すなど、こどもの人権を尊重した対応に努めています。そのほか、こどもの名前を呼ぶ際は、保護者やこどもが希望する呼び方でこどもに声をかけることを心がけています。 学童クラブ内でのいじめの予防対策として、こどもたちに考える機会を設けています 区の児童虐待対応マニュアルを職員間で周知し、適切な対応と早期発見に努めています。また、学童クラブ内で暴力やいじめ、こども同士のトラブルが起こった際には、学童クラブの職員だけではなく、児童館職員と情報を共有し、全職員で対応をおこなう体制を整え、解決や再発防止への取り組みをしています。いじめについて考える機会を設け、ピンクシャツデーではシンボルであるピンク色の服や小物を身につけ、意識を高めて予防に取り組んでいます。トラブルの内容が重大になる場合には、学校と連携を図り、職員間で共有しながら再発防止に努めています。			

サブカテゴリ-6	
6 事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している ☐ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている ☐ 非該当
サブカテゴリ-6の講評	
各マニュアルは手順内容を明確にするとともに、整備し、職員間で周知を図っています 学童クラブでは、学童クラブ運営マニュアル、嘔吐処理マニュアル、食物アレルギー緊急時対応マニュアルなどを整備し、手順内容を明確にしています。マニュアルはいつでも確認できるように事務所内に掲示をして、職員間に周知しています。また、職員が育成支援をするにあたっての心構えを明記した法人作成の「わたしたちの約束」を全職員に配布しています。職員は、子どもたちとの関わりを定期的に振り返り、誰が対応しても一定水準の育成支援が遂行できるように取り組んでいます。 各マニュアルは必要に応じて見直し、変更をおこない、職員に周知しています 学童クラブでは、港区作成の学童クラブ運営マニュアルを活用して育成支援に取り組んでいます。また、港区から改正や変更がある際は、最新の情報にもとづきマニュアルの見直しをおこない、職員に周知しています。さらに、緊急性を必要とするマニュアルは、学童クラブの部屋に掲示し、年1回点検と見直しをおこない、迅速な対応ができるマニュアルの整備に取り組んでいます。嘔吐処理マニュアルに関しては、具体的な手順方法の確認を研修でおこない、誰もが同じ対応ができるようにしています。 子どもや保護者、職員からの意見を収集、改善を図り育成支援の向上を目指しています 学童クラブでは、提供する育成支援の向上を目指し、利用者アンケートで保護者からの意見を収集しています。「なんでもボックス」や「こども会議」などでこどもの意見を募り、活動や環境の改善に活かしています。また、ミーティングであがった職員の意見や提案を収集し、反映できるように取り組んでいます。行事やイベントに関しては毎回、保護者や子どもたちの反応を考慮しながら、職員からの意見を取り入れ改善を図り、子どもたちがより楽しめる行事やイベント開催に活かし、育成支援の向上につなげています。	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	28/28
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している				
評点(〇〇〇〇)				
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している			○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している			○非該当
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している			○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している			○非該当
評価項目1の講評				
職員は、こどもの姿や様子を把握し、全体のこどもと関われる取り組みをしています 職員は、児童票をもとに、こどもの発達過程や生活状況を確認しています。学校や家庭でのこどもの様子や姿を把握して必要な援助に努めています。職員は、2つのクラスに分かれている学童クラブのこども全員と関わる取り組みをしています。こどもたちとの関わりを深めるため、一人ずつ丁寧に声をかけることを意識しています。新1年生が入会する際は、入会前の保育施設と連携を取り、こどもの性格や特性に合わせてクラス編成と職員配置の工夫に取り組み、安心して過ごせる環境を整えています。 施設では、異なる年齢のこどもたちが自然に交流できるイベントを企画、実施しています 学童クラブでは、縦割りクラス編成で、こどもが互いの違いを理解し認め合い、尊重しながらより豊かな関係を築ける環境作りに取り組んでいます。職員は、国や文化の異なるこどものことを考慮し、こども同士でコミュニケーションを取ることが難しい場合は、職員が適切に対応し、こども同士の関係性が築けるように関わっています。発達の過程で生じるこども同士のトラブルに関しては、両方のこどもの思いを聞き取り、こども同士が納得できる働きかけをしています。また、こどもと同じ目線での会話を心がけ、気持ちを受け止めています。 配慮が必要なこどもへは適切な支援に努め、まわりと関わりを持てる援助をしています 学童クラブでは、発達面で特に配慮が必要なこどもが生活や遊びのなかで、まわりと関わりが持てる援助をしています。ゲームをする時などは、必要に応じて支援をおこない、こどもが興味を示したプログラムには、職員も一緒に参加するなど遊びを通してつながりが持てるように関わっています。配慮が必要なこどもができる範囲で、職員の手伝いをする機会を設け、楽しみながら自立できるように成長を支えています。また、港区自立発達支援センターの施設見学に参加し、こどもに合った支援方法を学んでいます。				
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している				
評点(〇〇〇)				
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している			○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している			○非該当
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している			○非該当
評価項目2の講評				
こどもの自発性や主体性の心を育むために、さまざまなプログラム活動を開催しています 学童クラブでは、こどもが興味、関心を持ち施設のプログラム活動に自由に参加できる環境を整えています。施設には、体育室、工作室、多目的室など遊びの目的に合わせた環境を整えており、こどもが自主的に遊びに参加できる働きかけをしています。プログラム活動は、職員から指導するのではなく、こどもたちのやってみようという自発性を大事にし、支援をできるように心がけています。プログラム活動に参加しにくいこどもへは、好きな遊びや得意分野を見つけ、活動に誘うなどこどもの思いを受け止め、スムーズに参加できるように関わっています。 職員は、集団生活を通してこどもが主体性を持ち、行動できる援助に努めています こどもが主体性を持ち集団活動に関わることができるように「子ども会議」を実施しています。こども会議は、児童館利用のこどもと一緒に生活や遊びについて話し合っています。職員は、こどもの意見や要望を聞きとり、実現が難しい場合は理由を伝え、どうしたら実現できるのかをこどもたちに問いかけることで、自ら考える力を育てています。集団生活が苦手なこどもには、個性や特性に合わせ、一人ひとりのペースを把握し、無理をすることなく、少しずつ集団生活に慣れる支援をしています。 基本的な生活習慣を身に付け、こども自身で行動できるように生活リズムを整えています こどもたちには生活や遊びを通し、基本的な生活習慣を身に付ける援助に取り組んでいます。入室後は、手洗いやうがいを習慣化できるように職員が声かけをし、掲示物で促しています。自由遊び前には、気持ちを落ち着ける時間を設けます。また、放送での連絡だけでなく、こども自身が時計を見て行動できるように生活リズムを整えています。遊び終わった後の玩具の片付けなども掲示し、こども自身が意識を高め、自立した生活が過ごせるように丁寧に指導をしています。そのほか、挨拶についても掲示をおこない、基本的なマナーを伝えています。				

3

評価項目3

日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○ 非該当

評価項目3の講評

行事は、興味や関心を持てるように「こども会議」を設け、意見を取り入れています

行事やイベントは、子ども自ら進んで取り組み、興味や関心を持てるように、こどもから何がしたいかを聞くために「こども会議」を設け、意見を取り入れています。また、行事の企画や装飾など、準備段階から子どもたちが中心となって携わり、行事への期待感を高めています。行事を作り上げる過程では、役割分担を決めて異年齢で取り組むことで、年上は年下が喜ぶ姿を見て、達成感を得られるようにしています。職員は、こどもたちのやりたいことへの実現に向かって、見守る姿勢で支援をおこなっています。

行事はこども同士で意見を交わし、お互いに協力し合い、楽しみながら進めています

施設全体のお祭り行事「あいぶら祭り」では、学童クラブのこどもたちも、スタッフの一員として参加しています。こどもたちが出店するコーナーは、普段の遊びで楽しんでいるものから取り入れ、こども同士で意見を交わして決めています。こどもたちからはゲームの射的や、利き茶の意見ががありました。お祭りの当日は、店の案内や配膳をするなど、お祭りの雰囲気を楽しみ、楽しめる環境を整えています。また、学童クラブ主催の「学童縁日」は、こどもたちだけで企画、運営をおこない、互いに協力して進めています。

行事への理解と協力を得ながら、保護者とこどもの成長した姿を共有しています

行事に対しての共通理解を得るため、学童クラブのおたより「WE-LAND」で行事に参加しているこどもの様子を写真で掲載し、保護者へ発信しています。また、お迎えの際にこどもの行事に取り組む姿や成長している様子を職員から口頭で伝え、共有を図っています。そのほか、保護者には年2回、親子ふれあいイベントとして、グループ対抗の競技大会や遠足の機会を設け、参加・協力の依頼をしています。学童クラブでは、親子イベントを通してこどもが積極的に行事に参加し、楽しめるように保護者の理解と協力を得ています。

4

評価項目4

子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている

評点(〇〇〇)・非該当1

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○ 非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○ 非該当
○あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	● 非該当

評価項目4の講評

学童クラブへ自ら進んで通い楽しめるように、プログラム活動の充実化を図っています

学童クラブでは、子どもが自ら進んで通い続けられるように、日常生活やプログラム活動の充実を図っています。また、プログラム活動への参加を呼びかけるための掲示をおこなっています。出欠席については、IGTシステムで管理をおこない、連絡がなく欠席している場合には、保護者に電話をかけ、確認をするなどこどもが安全に通うための配慮をおこなっています。こども自ら学童クラブへ通えるように、個人面談などで家庭でのこどもの様子や、学童クラブでの様子を保護者と共有しています。

こどもには、生活の流れに区切りをつけ、活動の見通しを持てる働きかけをしています

こどもには、主体的に次の行動へ見通しを持って過ごすための環境を整え、学童クラブでの生活の流れをタイムスケジュールで伝えていきます。職員は、こどもたちに遊ぶ時間や学習時間、おやつ時間など生活の流れに区切りがあることを伝え、生活の見通しを持てるように働きかけをしています。学校の長期休業の夏休みや冬休みは、一日の活動に変化をつけ、こどもが楽しめる企画や戸外活動も取り入れ、切り替えができる配慮をしています。また、昼食後は、動画鑑賞の時間を設けるなど、生活のなかでメリハリをつける工夫をおこなっています。

こどもが安心して活動できる環境を工夫し、さまざまな安全対策を徹底しています

学童クラブでは、こどもが安心して活動できるように状況に合わせて机の配置を変えるなどの工夫をしています。戸外活動の前は、安全確認のため下見に行き、安全に遊べるか確認をおこなっています。また、運動遊びをする前は、安全に遊ぶためのルールをこどもたちに伝え、怪我や事故がないように見守っています。さらに、警察署による交通安全教室や不審者対応についての安全教室を開催し、交通マナーや不審者から身を守る対応方法を学んでいます。そのほか、衛生面では定期的に玩具の消毒をおこない、感染症対策に取り組んでいます。

5	評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている 評点(〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○ 非該当	●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○ 非該当	●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○ 非該当
評価	標準項目												
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○ 非該当											
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○ 非該当											
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○ 非該当											
	評価項目5の講評 こどもが生活を円滑に過ごせるように、学校と情報を共有し連携をしています こどもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるように学校と情報を共有し、連携を図っています。学校から学童クラブに通う通学路点検を小学校教育、警察署とともに年2回実施し、こどもが安全に通学できる配慮をしています。また、学校から学童クラブの通学中に問題があった際は必ず学校へ連絡し、情報を共有しています。学校でこどもが怪我をした際は、養護教諭から連絡を受けるなど連携を図っています。そのほか、学校運営協議会に館長が参加し、学童クラブの運営や地域情報などの情報共有に取り組んでいます。 学校と情報共有を図り、こどもに必要な支援と安心して過ごせる環境を整えています 学童クラブは、不登校など、さまざまな悩みを抱えるこどもに関して学校と情報共有し、こどもの気持ちに配慮した支援に取り組んでいます。学校に連絡を取る際は、館長もしくは主任が窓口となり、副校長、クラス担任教諭と連携を図り、こどもの状況について情報交換をおこなう体制を整え、必要な支援に取り組んでいます。職員は、こどもの学校での様子を確認するため学校公開や行事見学に行き、こどもの状況確認に取り組んでいます。そのほか、学校と相談しながら、必要に応じて登校時間でも児童館で過ごせる体制を整えています。 発達面で特に配慮が必要なこどもの支援では、関係機関と支援方法の共有に努めています 発達面で特に配慮が必要なこどもの援助にあたっては、保護者からの生活状況調査書をもとに面談をおこない、こどもの発達状況や適切な支援について話し合っています。また、関係支援機関連絡会などに参加し、情報共有をおこない、養護学校の説明会や見学会の連絡がある際は、参加しています。養育環境で配慮が必要な場合は、子ども家庭支援センターと連携を図り、支援方法や情報共有に努め迅速に対応しています。関係機関と連携を図る際は、互いに情報を共有しながら、同じ支援方法ができるように取り組んでいます。												
6	評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している 評点(〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○ 非該当	●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○ 非該当	●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○ 非該当
評価	標準項目												
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○ 非該当											
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○ 非該当											
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○ 非該当											
	評価項目6の講評 おやつ時間はゲームやイベントを取り入れ、楽しく食べられる雰囲気作りをしています おやつ時間は、じゃんけん大会などのゲームをおこない、好きなおやつの種類を選べるなど、こどもたちが楽しく食べられるように雰囲気作りをしています。また、アイスクリームパーティーを開催し、クラス対抗のゲームやこどもが選んだアイスクリームをともちと一緒にご飯を食べる機会を設けています。おやつ提供に関するワーキング研修に参加し、港区内の各施設の提供方法やアレルギー対応に関する話を話し合い、情報共有に取り組んでいます。 リクエストおやつなど楽しんで食べられる工夫をし、提供する時間に配慮しています 学童クラブでは、こどもの来所時間やプログラム参加時間、家庭での夕食の時間帯を考慮し、おやつを提供する時間を分けるなどの配慮をしています。室内のホワイトボードには、当日提供するおやつの種類を職員が記入し、こどもたちに知らせ、これから食べるおやつへの期待感を高めています。また、こどもから食べたいおやつを聞くアンケートや人気投票などもおこない、楽しんで食べられる工夫をしています。そのほか、季節に合った果物も取り入れ、季節感が味わえる工夫をしています。 食物アレルギー対応に取り組み、安全面の徹底をしています 学童クラブでは、食物アレルギー緊急時対応マニュアルを設置し、緊急時の対応と役割分担のフローチャートの掲示もおこない、緊急時に備えています。また、アレルギー対応研修にも参加し、学んだことを職員間で周知し、共有を図っています。こどもの食物アレルギー対策として、全てのおやつにアレルギー該当品目が入っていないものを選び提供しています。提供する際も、職員がチェックをおこない、安全面の徹底をしています。おやつを提供する際は、テーブルの消毒、包装した袋おやつでの提供など衛生管理にも取り組んでいます。												

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している 評点(〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○ 非該当	●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○ 非該当									
評価	標準項目																		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○ 非該当																	
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○ 非該当																	
	評価項目7の講評 安全面への意識を高めるために、手洗いの大切さなどを伝えています 職員は、子どもが健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防、防止できるように働きかけています。子どもが入室した際は、手を洗うことを促し、掲示物も活用して手洗いの大切さや感染症対策が意識できるように伝えています。また、水辺の安全指導として職員が寸劇を交えながらウォーターセーフティを実施し、自分の身を守り安全に遊ぶための指導に取り組んでいます。警察署と協力のもと、交通安全、防犯対策指導の機会を設け、安全に対する意識を高めています。そのほか、感染症防止のため、加湿器を設置し、備品に関しては消毒を徹底しています。 職員は、子どもが安全に遊ぶために、マニュアルの活用と安全確認をおこなっています 学童クラブでは、こどもの怪我や体調に変化があった際は、早急に対応できるよう、緊急対応に関するマニュアルを掲示し、安全対策を徹底しています。室内の清掃時には、壊れた物や危険箇所がないかを確認し、子どもが安全に遊べる環境を整えています。また、感染症予防対策として、看護師指導による嘔吐処理研修を実施し、二次感染防止に努め、こどもの健康維持に取り組んでいます。特別な配慮が必要なこどもに、医療的ケアが発生する際は、必ず保護者に連絡し、保護者と連携を図ってから専門医療機関につなげる協力体制を整えています。																		
8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 保護者同士が交流できる機会を設けている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○ 非該当	●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○ 非該当	●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○ 非該当	●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○ 非該当	●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○ 非該当
評価	標準項目																		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○ 非該当																	
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○ 非該当																	
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○ 非該当																	
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○ 非該当																	
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○ 非該当																	
	評価項目8の講評 保護者の就労や事情に合わせた支援に努め、保護者同士の交流の場を設けています 保護者の就労状況などは入会時に把握し、その後は年度毎に確認をおこない、預かり時間の調整をおこなっています。また、個人面談を実施し、保護者から家庭でのこどもの様子や、家庭状況などを聞き取り、個々の事情に合わせ、必要に応じた支援に努めています。学童クラブでは、保護者同士が情報交換をおこない、こどものことを共有できる場として、保護者会を実施しています。親子ふれあいイベントは、親子で触れ合う企画のほかに、普段会うことができない保護者同士が親睦を深められる機会を設けています。 保護者には、こどもの成長した姿を伝え共有し、信頼関係の構築に取り組んでいます 学童クラブの職員は、子ども一人ひとりの成長した姿を丁寧に伝えていき、共有しながら保護者との信頼関係の構築に取り組んでいます。年度末の保護者会では、こどもの活動の様子を写真のスライドショーにして上映しながら1年間を振り返り、保護者とともに成長を喜ぶ機会を設けています。また、毎月発行の「WE-LAND」は、イベントを楽しむこどもの姿を写真で掲載し、保護者に日々の活動の様子を伝えていきます。親子ふれあいイベントは、職員も参加し、こどもの様子を伝えるだけでなく、一緒に楽しめる時間となる取り組みをしています。 保護者とは、個人面談やお迎え時のやり取りを通して、共通認識に取り組んでいます 保護者とは、個人面談やお迎え時のやり取りのなかで、こどもの様子や発達状況を確認し、共通認識に取り組んでいます。個人面談では、学童クラブでのこどもの様子を伝え、お迎えの際は、コミュニケーションを取りながらこどもの成長した姿を伝え、共通の認識を持つ取り組みをしています。施設内には、職員のことを身近に感じてもらえるように職員紹介の掲示をしています。また、出欠席はICTシステムで確認し、連絡がなく出席がない場合は、保護者へ電話を入れ状況確認をおこなうなど、こどもの安全確保のため保護者と協力体制を整えています。																		

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○ 非該当
	●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○ 非該当
	評価項目9の講評		
	さまざまな地域資源を活用し、体験を通して楽しみながら学ぶ場を設けています 学童クラブでは、地域資源を活用し、こどもたちに、さまざまな体験を通して学ぶ場を設けています。警察署とは安全教室、防犯教室を実施し、交通安全のルールや自分の身を守る力を身につけることを学んでいます。また、同法人が運営する学童クラブのこどもたちとは、年4回程度、交流の機会を設け、公園での戸外活動や化学実験型のプログラムイベントに参加し、科学の不思議や面白さを体験しながら学ぶ機会を提供しています。さらに、遠足の行き先として、科学館や博物館に行き、展示物の見学を通して、多くの学びを得られる場で実施しています。 さまざまな人々と関わる機会を設け、生活と交流の幅を広げています 行事や日常生活のなかで、さまざまな人々と関われる機会を設け、生活や交流の幅を広げています。施設では、地域との関わりを大切にしており、こどもたちが地域の一員となって、豊かな経験につながる交流を図っています。学童クラブのこどもたちも積極的に地域交流に参加しています。地域のお祭りでは、児童館のこどもたちと一緒にダンスチームとしてステージでダンスを披露しています。また、ハロウィンイベントでは、地域の企業を回り、企業の人からスタンプやシールをもらうなど、貴重な体験を通して交流の幅を広げています。		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-1-3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる
タイトル①	こどもの居場所を提供するための職員教育や理念の共通理解に力を入れています	
内容①	こどもの居場所を提供するための心得などを取りまとめた「わたしたちの約束-居場所事業の目指すこと」の内容の理解を職員全員が深め、アフタースクール事業に取り組んでいます。法人として保育事業の理念などがまとめられたものが先行して制定され、理念などの抽象的なものから具体的なこどもの接し方などの話し合いをおこない、「わたしたちの約束-居場所事業の目指すこと」の制定をしました。居場所についての専門家の講義を実施し、内容について職員間で話し合い、より理解を深めることに注力しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル②	タスクチームを編成し、より質の高いサービス提供を追求しています	
内容②	施設や事業部の境を超えて特定の課題解決などに取り組むタスクチームの制度を活かして、事業部の組織力や質の向上に力を入れています。研修内容、SDGs、ユースボランティア、子育て支援などのテーマごとにタスクチームを編成し、より質の高いサービス提供を追求しています。港区では海外出身の人も多く、職員が国際理解を深めるだけでなく、こどもが世界情勢や多様な価値観、風習などを知るきっかけになるための国際タスクチームにも力を入れています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル③	こどもたちの安全と、安心が守られる地域社会への実現に力を入れています	
内容③	施設では、地域とのつながりを深め連携を図り、こどもたちの安全と安心が守られる地域社会への実現に力を入れています。こどもたちには、育成支援の取り組みとして、地域との関わりが持てる機会を設けています。地域とは、日頃から関わりを持つことで、こどもが施設や学童クラブ以外で困ったことがあった時、手をさしのべてくれる関係性を築きたいと考えています。また、学校や地域の方々が集まる運営協議会を通して、周囲の子育ての現状を把握し、ともに協力体制を整え、安全で安心できる環境の地域社会を目指しています。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	親子で参加できるイベントや、子育て支援となる講座の実施など、地域との接点となる居場所を提供しています
	内容	こどもや高齢者に向けたサービスに取り組むことだけではなく、保護者の居場所となれるように子育て支援活動に取り組んでいます。はいはい時期の赤ちゃんでも安心して利用できる乳幼児と保護者の専用スペースを整え、親子で工作が楽しめるイベントなどを企画しています。子育ての不安を解消するために子育て講座の実施や、産後のボディケアについてのイベントも実施し、こどもだけではなく、保護者にも安心して過ごせる場所となる取り組みをしています。
2	タイトル	高齢者が楽しむ・生活の役に立つなどさまざまなプログラムを展開し、過ごしやすい居場所を提供しています
	内容	他の高齢者施設に比較的多く設置してあるプールやお風呂が当施設にはないため、生活の役に立つものや高齢者が楽しむためのさまざまなプログラムを展開し、一人ひとりにあったものへ参加できる工夫をしています。テーブルゲームや、体を動かすもの、音楽を楽しむもの、その他の趣味を楽しむもの、スマートフォンの使い方の相談など、多種多様なものを企画し、当日参加できるものも多く用意しています。こどもから高齢者までが楽しく過ごせる居場所であるように努めています。
3	タイトル	施設では、障がいがあるこどもが好きな遊びを見つけ多くのこどもたちと交流しながら、互いを認め合い生活が楽しめる環境を整えています
	内容	施設は学童クラブと併設しているため、一般利用のこどもと、学童クラブのこどもが同じ空間のなかで、ともに関わりながら、遊びを共有しています。そのなかで、障がいがあるこどもが好きなことを見つけて楽しめる環境を整えています。プログラム活動や各部屋での遊びでは、職員が見守るなか多くのこどもたちと交流を持ち、互いの存在が理解し合える場となっています。時には、上手くコミュニケーションが取れなくても、職員は何が出来ないのかを伝え、こども自身が考えるなかで互いを認め合い、ともに生活が楽しめる環境を整えています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	「わたしたちの約束－居場所事業の目指すこと」を活かして、経験の浅い職員への教育に注力することが期待されます
	内容	施設ではチューター制度を導入して、経験豊富な職員が経験の浅い職員の教育にあたり、それぞれの職員の特異なことを活かして経験が積めるように取り組んでいます。こどもに居場所を提供するための心得などをまとめた「わたしたちの約束－居場所事業の目指すこと」により共通した方向性を持ち、法人内の他事業所との研修をおこなうことで幅広く意見交換ができる工夫をしています。現在は新しい職員が増えたこともあり、経験の浅い職員の教育に注力し、さまざまな人の居場所を提供していくことが期待されます。
2	タイトル	長期間の運営実績を活かし、今までの当たり前を改めて見直して、より質の高いサービスを提供していくことが期待されます
	内容	施設は開設してから18年が経過し、コロナ禍などの想定外の事態も経て、現在は安定した運営をおこなっています。一方で利用者のために新しいプログラムなどを企画し続けてきたため、メニューが多すぎる状態が課題として考えられます。このような時期に達したので、過去の実績があるから昨年と同様におこなうといった発想をなくし、今までの当たり前を改めて見直し、継続や改善の検討をおこなうことで、より質の高いサービスを提供していくことが期待されます。
3	タイトル	現在よりも幅広い分野の研修による職員の質の向上を図り、より魅力的な高齢者の居場所となる環境を提供することが期待されます
	内容	高齢者事業にかかわる職員の教育について、職位別の研修や事務業務効率化に関する研修、区が主催する高齢者福祉やケアサービスといった分野の研修が非常に充実しています。それと比較すると、趣味やレクリエーション、学習活動や健康づくり、交流や地域活動などにかかわる研修が少ないので、そのような分野の研修も充実させ、今よりもさらに楽しみや生きがいを感じられるような、高齢者の居場所となれる環境を提供していくことが期待されます。